〝学費の負担軽減、高等教育予算増額〟をもとめる請願署名

～学びを守る社会を目指す～

衆議院議長　殿
参議院議長　殿

紹介議員（　　）

【要請趣旨】

「高い学費で親に苦労をかけている」「バイトで睡眠時間がとれず、授業中眠くてしかたがない」「一日一食しか食べていない」「返せるか不安で奨学金が借りられない」「学費のせいで大学進学をあきらめた」――切実な声があいついでいます。大学の学費（授業料・入学料など）は、国立大学で 80 万円、私立大学で平均 130 万円にのぼります。高い学費のもと、お金がなくて勉学をあきらめる若者がふえつづけ、学ぶ機会や将来への夢がうばわれています。

今年（2012 年）、政府は国際人権規約 13 条 2 項ｃについてこれまでの留保を撤回し、学費を段階的に無償にすると決めました。しかし、そのための具体的な政府のとりくみは極めて不十分です。日本の学費は、世界のなかでは異常です。ほとんどの先進国では、授業料は無料かきわめて安く、奨学金制度でも、返済しなくてよい給付制が中心にすえられています。

学ぶことは、人間らしく生きるうえで不可欠の営みです。若者が、学んでこれからの社会の担い手として成長してこそ、人類がぶつかっている課題を解決し、新しい時代をつくる道もひらけます。経済的理由で学業をあきらめる若者をなくそうと、いま各地の大学で、学費負担をへらす動きがはじまっていることは重要です。学びを守る社会を実現し、「教育をうける権利」（憲法 26 条）を保障するため、政府が責任をもって手立てを講じることを、つよくもとめます。

【請願項目】

○ 国際的にも高すぎる学費を、これ以上値上げせず、段階的な値下げにふみだすこと。
○ お金がなくて学べない若者を生まないため、政府の責任で、学費の負担をへらすこと。
- 授業料免除を、年収 400 万円以下の家庭の学生はすべて受けられるようにし、さらに実情をふまえた軽減措置をひろげること。
- 奨学金では無利子枠をふやし、給付制をつくるとともに、卒業後は、年収 300 万以下のすべての人の返済を猶予すること。

○ 老朽化して危険な施設をすみやかに改修し、とくに学生寮を充実すること。
○ 以上を実現するため、高等教育予算の削減をやめて増額すること。

氏名		住所	
一言			
氏名		住所	
一言			
氏名		住所	
一言			
氏名		住所	
一言			
氏名		住所	
一言			

【取り扱い団体】日本共産党福岡県委員会
福岡市博多区住吉5-6-14
TEL.092-411-5131 FAX.092-411-5926